

としょかんだより 第106号

図書館戸田文化講座



今回、二回目となる戸田文化講座の講師は夢枕獏先生でした。演題は「空海と私」でしたが、予定していたお話を変更して、以前夢枕先生が取材のためヒマラヤに登った時のことをお話ししてくださ

いました。登山中に食糧が駄目になった事、取材中に会った僧侶の話等を短い時間の中たくさんの出来事をお話してくださいました。

夢枕獏先生特集！！

図書館閲覧室にて第2回戸田文化講座の講師をしていただいた夢枕獏先生の作品の一部を閲覧室で開架しています。ぜひこの機会に読んでみてください。

2016年 11月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2016年 12月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

	9:00-20:00		9:00-17:00
	13:00-20:00		13:00-19:00
	休館日		9:00-19:00

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町

高野山 385

高野山大学

図書館閲覧室

TEL : 0736-56-3835

FAX : 0736-56-5590

twitter : @koyasanlib

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

書名	請求記号	登録番号
沙門空海唐の国にて鬼と宴す巻ノ1	624/シ/42-1(b)	000136169
陰陽師	680/ユ/1-3-1	000138983
空海曼陀羅	462/ク/119	000096224
萬福寺 古寺巡礼京都	266/コ/26-19	000123846
ブッダの方舟	280/フ/16	901000829

クリスマスコンサートのお知らせ

電子ピアノによるクリスマス曲の演奏が開催されます。皆様、お誘い合わせの上、ぜひ図書館へお越しください。



日時：12月6日(火) 16:40~17:10

場所：図書館閲覧室

小林一茶

図書館長 前谷 彰(恵紹)

長き夜^よや心の鬼^{せむ}が身を責める

(句意)

秋の夜長というが、本当に夜が長い。
そんな時、心の中にいる鬼が身を責めるものだよ。

(解説)

ここで少し一茶の性格について少しお話をしてみることにしましょう。一茶は、家族縁の薄い孤独な人であったイメージが強いようですが、実は全く違います。

誰もが知っている「瘦蛙負けるな一茶これにあり」の句に代表されるように、一茶はいつも前向きで決して暗い人間でなかったことだけは確かです。一茶の句の中で、蛙に纏わる句が圧倒的多数を占め、その次に雀(子雀)であることから考えて、彼は決して美男子でなかったことだけは確かでしょう。風貌はきっとガマ蛙にそっくりだったかもしれません。でも、「我と来て遊ぶ親のない雀」に代表される雀(子雀)を題材とした句などからは彼のやりきれない寂しがり屋の一面を垣間見ることができます。ところが、究極の寂しがり屋であるにも拘わらず、彼の句を見る限り、決して「孤独」というようなことばは似合わない。一茶は自分が醜男であること、家族縁の薄い孤独な身の上であることをちゃんと知っていたからこそ、何事も「諦めが肝心」ということを誰よりもはっきりと分かっていたに違いありません。だからこそ、「めでたさも中ぐらい也おらが春」とか、「これがまあつひのすみかか雪五尺」というような句を詠えたのでしょう。

何でもくよくよしても仕方がない。今与えられた境遇をそのまま受けとめて行くしかない。一茶はそう思いながら、いつも前向きに自分の道を正直に歩んでいたのです。

この句は、秋の夜長に何もすることがなく退屈な時を過ごしている時に、ふと湧き上がって来る性欲を鬼に喩えて、女の性ならぬ男の性を何の銜いもなく全く正直に詠い上げた、一種微笑ましい句と言えるのではないのでしょうか。

しかし、一茶はきっと羨ましいばかりの精力絶倫の男であったに違いありません。

一茶は当時の常識、現代の常識から考えても極めて晩婚です。彼の初婚は五十二歳の時で、しかも妻のキクは何と二十四歳も年下だったのですから。それにも拘わらず、彼は三人もの子をもうけ、その子らはみんな早世したとは言え、また二番目の妻を娶っています。さらに、六十五歳で三番目の妻ヤヲを娶り、出来た子どもにご対面することなくこの世を去るのですから、見事なものです。我々サラリーマンも、こんな一茶の前向きで豪放磊落な生き方にあやかりたいものですね。